

- 個別事象をリスクとして具体化するため、地震、津波、火山、水害、土砂災害、高潮の自然災害に関する専門的知見を有する外部有識者から集中的に意見を聴取し、検討
- ナショナル・レジリエンス(防災・減災)懇談会において、リスクシナリオの対象とする個別事象を抽出するための考え方を検討

ナショナル・レジリエンス(防災・減災)懇談会との関係と検討の流れ

◇ ナショナル・レジリエンス(防災・減災)懇談会 ◇

1. 外部有識者から意見を聴取するにあたり、リスクシナリオの対象とする個別事象を選定するための考え方を検討

3. 社会、経済条件も踏まえながら、外部有識者から聴取した意見の肉付け

- 「起きてはならない最悪の事態」の検討 (リスクシナリオの検討)
 - 45の「起きてはならない最悪の事態」を基に肉付け・検討
- 国土強靱化としての目標レベルの検討
- プログラム・施策等の優先順位付け、重点化手法の検討

選定
依頼



意見
聴取

◆ 専門的知見を有する外部有識者 ◆

2. 科学的に被害の大きさ、地域毎の発生頻度等を考慮して、リスクシナリオの対象となりうる個別事象を選定し、その被害の概観(人的影響、生活・サービスに関する社会インフラへの影響、直接的・間接的な経済的影響、心理的影響等)について発表

意見聴取外部有識者

1回目		2回目	
【高潮】	磯部 雅彦 (高知工科大学副学長・教授)	【地震】	阿部 勝征 (東京大学名誉教授)
【水害】	小池 俊雄 (東京大学大学院工学研究科教授)	【津波】	今村 文彦 (東北大学災害科学国際研究所所長)
【土砂災害】	池谷 浩 (政策研究大学院大学特任教授)	【火山】	藤井 敏嗣 (東京大学名誉教授)

※ 1回目：平成27年1月22日、2回目：平成27年2月3日実施